

所属・氏名 (健康科学部 心理学科 氏名：大藤弘典)

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (著書) 心理教育統計法特論	共著	2021	放送大学教育 振興会	小野寺孝義 (編) 「第3,4,8章」を 担当 (大藤弘典, p44-71, p121-135)。 本書は放送大学の大学院の授業のた めに書かれた教科書である。担当章 では記述統計と推測統計 (t 検定, 分 散分析) の手順を説明した。
2 (著書) jamovi で学ぶ心理統計 学	共著	2020	ナカニシヤ 出版	小野寺孝義・大藤弘典著 「第3章～ 8章」を担当 (p33-98)。本書は誰でも 無料で高度な統計分析が行えるよう に開発された統計ソフト jamovi の使 い方を紹介したテキストである。担 当章では, jamovi を用いた t 検定, 分散分析, 相関・(重) 回帰分析, χ 二乗検定のやり方を概説した。
3 (論文) Social closeness and perception of interpersonal spatial distance	単著	2019	Conference proceedings of 3rd annual international conference on cognitive and behavioral psychology	大藤弘典著 (p29-32) 本研究では, 他者と関わるなかでつくられる社会 的な距離 (親密度) が, 自分と他者と の空間距離の知覚に影響をする可能 性を検討した。実験では, 同じ社会集 団に属する参加者が, 他の参加者と 向かいあって立ち, 両者の空間距離 を推定した後, 相手との社会的な親 密さを互いに評価した。得られたデ ータを分析した結果, 男性参加者は, 社会的に遠い (親しくない) と思う相 手との空間距離はより長く, 社会的 に近い (親しい) と思う相手との空間 距離はより短く推定されることが示 唆された。この結果は, 社会的相互作 用が, 距離の知覚に影響を与えるこ とを示す新たな証拠となった。
4 (論文) The difference in cognitive processing between route and survey descriptions used by visuo- spatial working memory	単著	2017	<i>Spatial cognitionX</i>	空間的な配置について述べた文章の 理解において, 配置を記述する視点 と視空間ワーキングメモリの関係が どうなっているかを調べた。実験の 結果, 配置が俯瞰視点 (サーベイ視 点) と地上視点 (ルート視点) のどち らで記述されるかによって, 文章理 解に関与する視空間ワーキングメモ リのコンポーネントが異なることが 明らかになった。

令和 4 年 6 月 17 日 現在